

キャラクター名  
神崎 天汰

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー ハヌマーン		ワークス	高校生	カヴァー	剣術道場門下生
	オプショナル		年齢	16	性別	男
覚醒	無知	衝動	破壊	初期侵食率	31	%
出自	貧乏	経験	親友	邂逅	同志	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	34
肉体	3	1	2			6	行動値	6
感覚	1	0	1			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	2	0	0			2	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			RC	2		交渉		
回避	2		知覚	1		意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
絶刀・天之尾羽張	白兵	9r+3	9	12		侵食率9 クリティカル8 氷炎の剣+炎の刃+コンセントレイト・サラマンダー+昇+炎神の怒り HP-3点
	白兵	7r+1	13	20		侵食率9 80↑でクロスバーストをプラス クリティカル8 HP-3点
	白兵	8r+3	13	31		100↑コンセントレイト クリティカル7 HP-3点

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
蒼石輪廻	P○友情	N 自由		
D: 生還者	P○執着	N 恐怖		
高宮 水守	P○慈愛	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:サラマンダー	2	2	メジャー					
効果:	組み合わせた判定のクリティカル値を-LVする							
炎の刃	2	2	メジャー	武器		対決		
効果:	攻撃の攻撃力を+[LV×2]する							
一閃	2	2	メジャー		武器	対決		
効果:	一瞬にして敵に近づき、攻撃するエフェクト 技能<白兵>							
炎氷の剣	2	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	1のP160 炎の刀を作りだす							
クロスバースト	3	4	メジャー			対決	80↓	
効果:	2の163							
炎神の怒り	2	3	メジャー/リアクション					
効果:	1P156 HPを3点失うがダイスを+[LV+1]する							
軽功	★		常時	至近	自身	自動		
効果:	P132							
氷の理	★		メジャー	至近	対象参照	自動		
効果:	P164							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

神崎 天汰(かなざき あまた)  
 貧乏な家に生まれた剣術少年 家は両親共に健在。 両親に心配をかけない為に、新聞配達のパイトをしている。  
 同時に、近所の剣術道場で門下生をしながら手伝いをしている  
 とても身軽で、ビルの壁を走ったり、水面を走って移動できるなど人間離れしている  
 (炎を扱うのだが、同時に手に触る物を冷やしてしまう為) 手が冷たく人との触れ合いが苦手  
 それ故に、自然と人との触れ合いを避ける傾向にある

日本刀を所持

幼いころから力は共にあったが、それを知らずにいる。 身体能力は常にトップ  
 しかし、時折破壊衝動によって人や物を壊したくなる  
 その衝動を常日頃、抑えている為、どこかで自分は普通の人間ではないのでは……?と自覚しており、それがオーヴァードなのは分かっている。  
 親友の遠藤に対して憧憬を抱いているが、反面眩しく人気者の彼の性格、人格、気質、あらゆる全てに劣等感を抱いている  
 だが、同時にその劣等感を抱いている自分を激しく嫌悪している  
 剣術の師匠である黒鉄 黒鶴(くろがねくろう) に対しては心技体の頂点に立っていること、人格等、全てを含め尊敬を抱いているものの、いつかなくなるのでは、と言う不安を持っている。  
 高宮 水守とは仲がいいクラスメイト。 高宮恭治さんとも知り合いで、彼女には無償の慈愛を向けており、同時にこの先の未来を思い不安を抱いている。  
 どこにでもいる普通の少年になりたかった少年。 しかし、今は自分にできることとして、非日常に備えてただ愚直に剣を磨く。  
 いつか自分も心技体を極め、剣の頂点に立てるように。  
 だが、もし自分が人でないならば、自分の日常を、大切な人たちを守れるなら、自分は勇んで戦いへと赴くだろう、と心のどこかで思っている。

非日常とは程違い、日常に居ながらも異質な存在。